

学生への報告

2007年度授業アンケートの結果について

白梅学園大学・短期大学
自己点検・自己評価委員会

1. アンケート調査の目的

2007年度が終わりに近づいていますが、白梅学園での学習や研究はいかがでしたか。白梅学園では5年前より授業アンケートを行って授業の改善をめざしてきていますが、客観的に評価を行うために、次のように改善して取り組んできました。

- (1) ゼミ等を除いて全ての授業でアンケート実施すること
- (2) アンケートの回収を授業担当の教員ではなく事務の方々にお願いしたこと
- (3) 記述の部分を電子データ化してから評価の数値の平均と合わせて授業担当者に渡し、残された期間の授業の対応と学生の回答へのコメントを求めたこと
- (4) アンケート結果と授業担当者のコメントをまとめて、教員の自己点検・自己評価委員会として学生の皆さんにアンケート結果を報告すること
- (5) 以上を前提に、次年度の授業をより良いものに教員と学生で作って行く契機とする

2. アンケートの経過と結果

前期は7月初旬にアンケートを実施し、授業担当者に7月中に結果を戻してコメントを求めました。後期は12月はじめにアンケートを実施し、12月下旬には授業担当者にアンケートの結果を配布してコメントを書いてもらいました。そして残された期間での授業の改善をお願いしました。

以下学生の皆さんへのアンケート結果全体と、授業担当者からのコメントを参考にして、授業アンケートについてのまとめを報告します。

(1) 授業アンケートについて

質問項目は以下の通りですが、昨年度に比べて一部変更しました（下線部）。アンケートの回収率は、前期が84%で8割を越えましたが後期は73%と低下しました。昨年度に比べても低下していますので学生の皆さんの積極的な参加をお願いします。

全体的な平均では前期、後期ともに4.0を越えました。しかし昨年度に比べるとやや低下しています。評価項目が変わったこともありますが、後期の回収率の下降を考えるとやや授業への熱意が低下していることが伺えます。教員、学生ともに再度授業改善の熱意を高める必要があります。学科ごとでは、子ども学科1年生が昨年度に比べてやや落ち込んでいます。また短期大学では心理学科2年生が昨年度に比べて落ち込んでいます。

全体としては前述のように4.0を越えていますので、学生の皆さんが白梅の授業に一定の評価を行っていることが伺えます。以上の全体の評価をふまえて、右頁よりアンケート結果を分析します。

(2)2007年度授業アンケートの集計結果

1. 毎回の授業の目的が明確で、それに沿って行われていましたか
2. 今までの授業全体の内容を理解できましたか
3. 教員は、授業内容に熱意を持っていましたか
4. 教員は、学生の理解度に配慮していましたか
5. 授業での教員の声の大きさや言葉づかいは適切でしたか
6. 板書や教材などは見やすかったですか
7. 成績評価の方法と基準は明確に理解できましたか
8. あなたは、この授業に熱心に参加しましたか
9. 分からないことは、質問したり調べたりしましたか
10. この授業を受講して、その分野についての新しい知識や技能が得られましたか
11. この授業について、総合的に満足していますか

前期	履修	回答	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均
子ども学科1年	1678	1428	4.25	3.89	4.31	3.88	4.15	3.90	3.84	4.05	3.53	4.04	3.95	3.98
子ども学科2年	1992	1717	4.31	3.94	4.58	3.92	4.29	3.92	3.72	3.93	3.48	4.25	4.05	4.04
子ども学科3年	1852	1370	4.45	4.11	4.58	4.18	4.36	4.11	3.90	4.23	3.75	4.32	4.20	4.20
教養教育	1668	1439	4.10	3.69	4.25	3.70	4.07	3.73	3.69	3.95	3.52	3.95	3.77	3.85
保育1年	1209	1132	4.39	4.02	4.57	4.07	4.34	3.96	3.87	4.26	3.45	4.34	4.20	4.13
保育2年	1513	1365	4.50	4.28	4.61	4.27	4.41	4.25	4.22	4.37	4.01	4.45	4.34	4.34
福祉援助1年	834	674	4.19	3.69	4.26	3.80	4.14	3.85	3.59	3.88	3.39	4.00	3.89	3.88
福祉援助2年	310	242	4.33	3.82	4.14	3.74	4.07	3.79	3.80	3.88	3.34	3.90	3.91	3.88
心理1年	455	368	4.11	3.48	3.94	3.55	3.87	3.74	3.61	3.75	3.38	3.85	3.55	3.71
心理2年	580	383	4.27	3.54	4.36	3.76	4.43	3.68	3.85	3.84	3.20	4.02	3.86	3.89
専攻科福祉	176	161	4.51	4.16	4.50	4.19	4.37	4.13	4.12	4.10	3.63	4.36	4.15	4.20
84%	12267	10279	4.31	3.87	4.37	3.91	4.23	3.91	3.84	4.02	3.52	4.13	3.99	4.01

後期	履修	回答	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均
子ども学科1年	1568	974	4.03	3.75	4.20	3.78	4.04	3.68	3.63	3.92	3.40	3.94	3.77	3.83
子ども学科2年	2217	1723	4.28	3.86	4.58	3.91	4.31	4.00	3.62	3.99	3.47	4.21	4.06	4.03
子ども学科3年	1610	1098	4.30	3.90	4.50	3.93	4.32	3.99	3.65	3.95	3.36	4.15	4.03	4.01
教養教育	1239	872	4.22	3.81	4.35	3.97	4.26	4.03	3.96	3.95	3.66	4.02	3.97	4.02
保育1年	1571	1203	4.02	3.77	4.21	3.80	4.05	3.91	3.92	4.11	3.68	4.38	4.21	4.01
保育2年	1502	1313	4.50	4.29	4.63	4.34	4.55	4.33	4.30	4.33	3.93	4.42	4.33	4.36
福祉援助1年	931	578	4.13	3.73	4.20	3.90	4.23	3.88	3.75	3.84	3.46	3.96	3.92	3.91
福祉援助2年	330	223	4.43	4.03	4.27	4.10	4.29	4.08	4.03	4.02	3.58	4.13	4.10	4.10
心理1年	465	330	4.18	3.40	4.20	3.77	4.16	3.83	3.75	3.90	3.57	4.00	3.78	3.87
心理2年	245	159	4.25	3.67	4.20	3.86	4.14	3.82	3.74	3.86	3.31	4.02	3.96	3.89
専攻科福祉	191	159	4.26	3.78	4.25	3.83	4.12	3.93	3.82	3.95	3.50	4.02	3.89	3.94
73%	11869	8632	4.24	3.82	4.33	3.93	4.23	3.95	3.83	3.98	3.54	4.11	4.00	4.00

(3) 2007年度授業アンケートの分析

前頁の表を縦にみると各項目別の平均の合計があります。前・後期共に「1.毎回の授業の目的が明確で、それに沿って行われていたか」の質問では全学科で概ね「5.そう思う」から「4.ややそう思う」の間の回答をしていました。しかし、「今までの授業全体の内容が理解できたか」については、全学科で概ね「4.ややそう思う」と「3.どちらともいえない」の間の回答であり、授業理解という点で課題が残されています。

「3.教員は、授業内容に熱意を持っていたか」の質問では全学科で概ね「5.そう思う」から「4.ややそう思う」の間の回答であり、教員の熱心さには肯定的な評価をしていました。しかし「4. 教員は学生の理解度に配慮していましたか」の質問では、評価が前後期ともに「4.ややそう思う」と「3.どちらともいえない」の間になっています。授業がややむずかしいということを表していますので、これも今後の課題として考えたいと思います。

「5.授業での教員の声の大きさや言葉づかいは適切か」、「6.板書や教材などは見やすかったか」は、全体の傾向と同じように昨年度に比べて低下していますので、授業方法の工夫については今後の改善が必要です。

「7. 成績評価の方法と基準は明確に理解できましたか」は今回はじめて加えられた項目です。前後期ともに「4.ややそう思う」よりも低くなっていますが、これはまだまだ成績評価の方法や基準が十分に伝わっていないことを示しています。これも今後の課題となります。

「8. あなたは、この授業に熱心に参加しましたか」及び「9. 分からないことは、質問したり調べたりしましたか」は昨年度とほぼ同じですが、特に問9の数値が低いことが気になります。

「10. この授業を受講して、その分野についての新しい知識や技能が得られましたか」は今回初めて取り入れられた項目です。前期後期ともに評価が「4.ややそう思う」を越えていますので、学生の皆さんが授業で何かを掴んでいるということが見えてきます。

「11. この授業について、総合的に満足しているか」の質問に関しては各学科によるばらつきがありますが、昨年度に比べて数値が上昇しています。各項目の平均ではやや低下していますので、印象として満足できる授業になっていることが読み取れます。

全体的には、昨年の評価と同様に、教員が授業の目的を明確にしながら熱意を持って授業に取り組んでいると評価し、学生が熱心に授業に参加しているにもかかわらず、授業内容の理解については課題があるという結果です。教員側の学生の実態に配慮した授業展開と、分からないことを質問したり調べるという学生の側の努力が求められているという結果です。

なお、記述の部分で、様々な施設上の問題点が具体的に指摘されています。学習環境は意欲的に学習する上で重要ですから、しかるべきところで検討できるように資料とさせていただきます。

(4) 授業担当者からのコメントについて

前期、後期ともにアンケートの結果である数字と記述の部分を電子データとして入力し、授業担当の先生方に読んでいただき、それを踏まえてそれぞれ先生方からコメントをいただきました。そのコメントを整理すると以下のようになります。

- ①授業の進度や教材の提示、あるいは説明の仕方など、工夫することによって改善できることについては積極的にいきます。
- ②内容の難しさについては同じく改善を目指しますが、高等教育機関である大学ではこのくらいの事を身に付けて欲しいという気持ちもあるので、どうしても難しくなる傾向があります。理解できるように説明するのは授業担当者の義務ですが、分からないときは毎回の授業の時にそのつど指摘して欲しい。
- ③多くの学生が授業に積極的に参加しているので、授業担当者としては大変感謝しています。
- ④ただし一部で授業に集中しない学生がいることについて、どうしたら授業に集中できるのか学生自身も考えて欲しい。
- ⑤授業は学生が積極的に参加してはじめて意味のあるものになります。授業を一緒につくるという観点から日頃から発言や意見をお願いしたい。
- ⑥授業だけでなく、日頃予習や復習、あるいは課題などを積極的にやってほしいということです。確かに様々な授業で予習や課題などを要求しますので、時には寝る時間を削ってもできないという声が寄せられています。授業担当者間の調整が必要な点は今後考えていきたいと思えます。
- ⑦アンケートは無記名であり、記述部分は電子データとして入力していますので、誰が書いたのか分からないようにしています。かつては授業担当者に対する人格的な非難などを含めた言葉が書かれていました。今年度はそうした記述がほとんどありませんでした。学生の皆さんの真摯な姿勢に感謝します。今後とも授業のやり方については建設的な意見や批判をしていただきたいと思えます。

3. 今後の進め方について

大学での授業は最も重要なテーマです。学生の皆さんと授業担当者である教員、そしてそれを支える事務職員のそれぞれの努力があって初めて有効に機能します。したがって今後も授業アンケートを資料にしながらか改善をすすめていきたいと思えます。

ただし、アンケートはそれぞれの期に1回だけです。授業はそれぞれ原則として各期15回ありますので、毎回毎回の授業こそが重要な場になります。ぜひその1回1回の授業を大切にしたいと思えますので、その都度授業担当者に言っていただくか、言いにくい場合は授業担当者以外の方に伝えてもらっても結構です。

専門的な知識や技能について教員は学生の皆さんよりも持っていることは確かです。それをどれだけ次代を担う皆さんに確実に伝えていくのが教員の歴史的な任務でもあります。そのためには教員と学生の努力、そして事務職員の協力が必要です。この1年の授業及び学生の授業評価から判断すると、概ねその努力や協力が生かされているのではないかと判断しています。

もちろん不十分な点は多々ありますが、それをお互いに補い合いながらよりよい授業づくりをすすめられたらと思えます。

次回の授業アンケートは2008年6月と11月に実施します。アンケート項目などで意見などありましたら自己点検評価委員会までお寄せ下さい。